

国際卓球連盟(ITTF)会長に9月就任 トーマス・ワイカートさんに独占インタビュー

インタビュー・写真：沼田一十三
通訳・翻訳：千葉秀樹
取材協力：マンフレッド・シリング

去る9月に、長期政権アダム・シヤフラ氏から引き継ぎ、第7代ITTF会長に就任したトーマス・ワイカート氏。第33回ヨーロッパ選手権を視察に訪れた氏の素顔に直撃。ドイツ人、52歳。プレーも観戦も大好きという言葉の二つ一つに、卓球をこよなく愛する想いがあふれていた。



ヨーロッパ選手権の練習会場で汗を流すワイカート“選手”。出張先にも必ずラケットを持ち歩く

「反応はいかがでしたか？」

「応援してくれました。これまでの卓球の仕事にも理解があり、今までも彼女の協力なくしては出来ませんでした」

「卓球の発展について、「意見を聞かせてください」

「中国、日本、ヨーロッパのギャップを埋めることが出来るか、が人気スポーツになれるか否かのポイントの一つだと思えます。中国の皆さんの努力の結果だが、今は一人勝ちの状態です。日本ではテレビ放映が盛んですが、最近ヨーロッパでは少なくなりました。中国と対等に張り合えるようになれば、人気も回復する。中国の練習、指導を学ぶことが大切だと考えています」

「卓球発展のモノサシを競技力水準以外に求めるとすれば？」

「卓球人口の増加もその一つです。ITTFはシヤフラ前会長の時代からアジア、ラテンアメリカ、アフリ

カに存在する、指導や普及のしくみが確立されていない小さな組織を支援してきました。卓球の文化がないので、プレーする人も少ない。そうした地域に卓球を伝え、教えていくことが必要です。自分も同じようにしていけたらと思っています。第1段階として選手派遣や用具の支援、ゆくゆくは自立を念頭に、がポイントです」

「ヨーロッパにおける卓球のポジションは？」

「ヨーロッパではサッカーがナンバー1で、多くの会社にチームがあるのに卓球はない。卓球はラケットやテーブルといった道具が必要で、難しいところもあるけれど、出来るだけたくさんの子を生ま出すこと、新しいアイデアを出すことで、他のスポーツより優位に立ちたい」

「ヨーロッパ選手権は、初めてプラスチックボールを使用しましたが、影響はどのようにお考えですか？」

「練習が一番。どんなレベルでもスポーツをエンジョイするためには練習が重要、プラクティス、プラクティス、プラクティスです。練習はプレーヤー共通のイベント。ハイレベルな選手なら毎日。そうでもない人には週に2日くらいの練習が、そのあとみんなでビールを飲みに行くという楽しみのお膳立てにもなる。そんなことがスポーツ全般のよさではないですか。子供たちや他人に教え、卓球を広める場にもなる」

「日本の卓球ファンにメッセージをお願いします。」

「練習が二番。どんなレベルでもスポーツをエンジョイするためには練習が重要、プラクティス、プラクティス、プラクティスです。練習はプレーヤー共通のイベント。ハイレベルな選手なら毎日。そうでもない人には週に2日くらいの練習が、そのあとみんなでビールを飲みに行くという楽しみのお膳立てにもなる。そんなことがスポーツ全般のよさではないですか。子供たちや他人に教え、卓球を広める場にもなる」

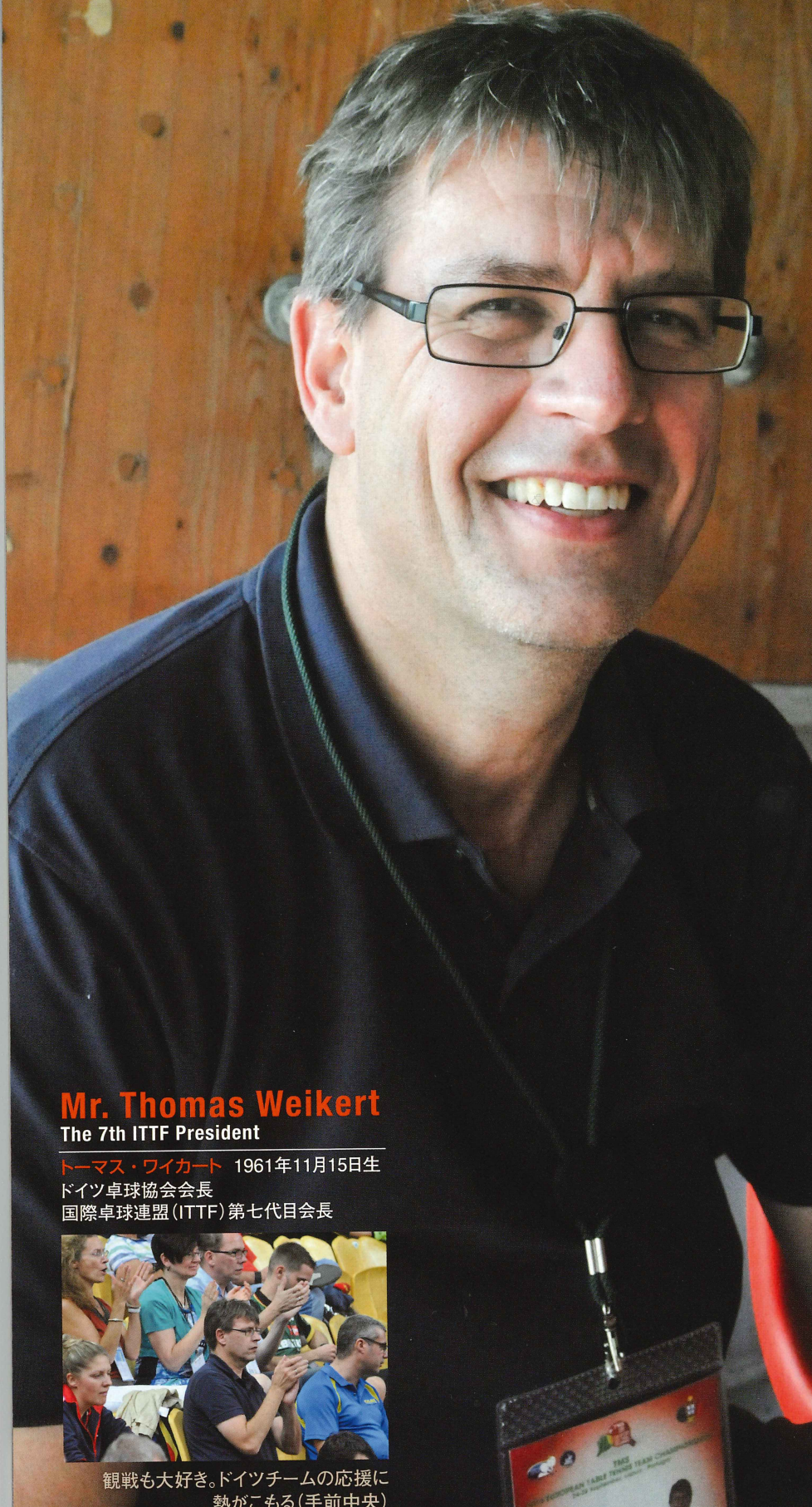
「2014 J A 全農世界卓球は、楽しく素晴らしい時間でした。会場内外でたくさんの方、チーム、ボランティアの人たちにも会えた。2009年の横浜大会も同様でした。とてもいい気分になるし、おもてなしもグッド。また訪れたい」

「プレーヤーとして卓球を楽しんでいますか。」

「もちろん！1973年からサッカーのゴールキーパーと卓球を始め、二年後に卓球専念を決意。1980年代にブンデスリーガ2部でプレー、今は6部です(笑)。イツマイスポーツ！楽しくってたまらない、分かるでしょうか？自分にとって最高のスポーツです。右利き、シエークハンド、ドライブ攻撃型。でもトップスローリー&ゴー、スロー&スロー、あははは。いつもラケットを持ち歩いている、嘘じゃありません。こんど一緒に練習しましょう、約束ですよ」

It's my Sport

若々しくて、気さくな人柄。マイラケットを肌身離さぬ現役プレーヤー「テーブルテニス、イツマイスポーツ！」



Mr. Thomas Weikert
The 7th ITTF President

トーマス・ワイカート 1961年11月15日生
ドイツ卓球協会会長
国際卓球連盟(ITTF)第七代目会長



観戦も大好き。ドイツチームの応援に熱がこもる(手前中央)